

## どうしてすぐに消えちゃうの？ 若葉台保育園（福島県いわき市）

【5歳児】

「科学する心」が育まれる保育を探るために、自発的に動いている場面 気付いている場面 自分の体験・気付きを、自分のものとして受容できている場面 保育者の意図的な支援・指導 の視点で事例をまとめる。

### 事例 どうして消えちゃうの？

天候もよく、気温の高い日だった。いつものように子どもたちが園庭のたくさんの花や野菜に水をあげていると、A児が、「先生見てて！」と地面を指差す。「ずっと見ててね。すぐに消えちゃうんだよ」とジョウロからばたばたとしずくがたれて濡れている地面をしっと見つめる。すると、本当に30秒ぐらいであっという間に地面が乾いてしまうことに保育者も気付いた。「ほんとうだね。すごいね。面白いことに気がついたね」と、保育者も驚きをそのまま表現し、気付いたことを賞賛する。先生に認めてもらったという満足そうな微笑を見せ、次に、「前は、お水で線を描いても消えなかったのに、どうして今日は、すぐに消えちゃうの？」と聞いてくる。蒸発の原理を教えるのは簡単だが、A児の発見を他児にも知らせ、皆で探求する活動につながると思い、「どうしてだろうね」「調べてみようか？」と投げかけた。A児は「うん」と言い、しばらくすると別の遊びに行ってしまった。

#### <考察>

毎日行っている花の水やりだが、子どもはそんな何気ない日常の1コマでさえも、不思議さ、面白さを見つけ出すことができる。大人が当たり前だと思っていることでも、子どもに寄り添い改めてその現象を見ると、その面白さを実感できる。また、のように子どもの気付きを肯定し誉めることで、子どもは安心し、心にある疑問や考えなどを言葉にする。このことから、幼児期においては、傍にいて見守り、認めてくれる存在がいかに重要であるかがわかる。

### 事例 「まって！消えないで！」

5歳児が自由に園庭で遊んでいるとき、何気なく園庭に水をまいてみた。A児はすぐに近づいてきて見ている。他児もどうしたのというように、数名集まってきた。少し時間が経つと、「先生！消えちゃった」「どこに行ったの？」と、子どもたち。「どうしてだと思う？」と、聞いてみると、「しみこんでしまったんじゃない？」「お日様にあたってるから乾いたんだよ」「え？絶対に土の中にしみこまれたんだよ」と、意見が2つに分かれた。「じゃ、どうしたら水がどこに行ったか分かるかな？」と、問いかけると、「何かに入れておいたら？」と、B児が言う。やってみようやってみようという雰囲気が盛り上がった。保育者もねらった言葉がでてきたので、水量が分かるようにテープを貼っておいたいろいろな容器を出して、子どもたちに選ばせてみた。

子どもたちが選んだタライとガラスの容器とペットボトルを、太陽のあたる所とあたらない所に置く。移動する時にこぼしてしまい、どんどん消えていく水を見て、「うわー！」「まって！消えないでー！」と言う。「ああ、溶けちゃったよ」「雪だるまはお日様に当たると溶けてなくなっちゃうでしょ、だから水も溶けてなくなるの」と、C児は子どもらしい素朴な理論で自分の考えを伝えようとする。

4時間後、水が減っていることを子どもたちの目で確認する。「少ない！」「なんで？」数時間で目に見えて水が減っていることに保育者も驚く。「少なくなったのは、誰かが飲んじゃったのかな？（保）」「きつと、溶けたんだ」「溶けるのはアイスだよ。水は溶けないよ」「水の日焼けだ」「天気の中に消えちゃったんだ」と、言葉が飛び交う。目の前のことを自分の言葉で表現しようとする。“蒸発”という言葉や、子どもたちに伝えようか伝えまいか瞬間的に迷ったが、子どもたちが自分の感じたこと、考えたことを、自分の知っている言葉で表現しようとする姿を尊重した。



水を入れて  
みるよ！



3つの容器の減っている水の量に違いがあることに気がついたC児。「ペットボトルを指さし、「これはあんまり減ってないよ」としばらく考え、「分かった！ここが小さいからだ！」と、ペットボトルの口を指さして言う。

「うわ、すごい！いいことに気がついたね。先生もそう思う。水の入り口が小さいからだね（保）」と、C児の気付きに共感し、整理して言葉にする。

また、「水があつたまってよ」と気付いたD児。水温計で計ってみると水道水が24、ペットボトルの水が32だった。みるみる上がっていく水温計の目盛り、「すごい。お日様にあつるとこんなにあつたまるんだ」と納得する姿があった。



### <考 察>

子どもが、不思議な現象や初めて出会う現象を理解しようとする時には、・・・のように、それまでの経験や自分の使える言葉を使って表現しようとする。その素朴な理論(ファンタジー)に、正解・不正解を出すのが保育者のすることではなく、子どもが出会った事象(不思議さ・疑問など)と向き合っ、感じ、考えている姿を捉え、また次への動きへとつながるよう支援・指導することなのだと思う。支援・指導する保育者にとって、子どもの自然現象の捉えの視点をしっかりもって、共感することが、資質として重要である。

### みどころ

子どもたちは砂場遊びで、砂に水が吸い込まれていく様子を体験しています。そのためこの事例の中でのA児は、水をあげている時の“水が地面でなくなっていく様子”は、砂場の様子とは違う「何か」を感じ、「どうして？」と疑問をもったと思われます。そしてA児の気づきが広がることで「土に水が浸みこんだ」「前は水で線を描いても消えなかった」「雪だるまは日に当たると溶ける」と、体験を振り返った様々な考えが引き出されています。幼児期は科学的な現象や用語を知識として獲得するのではなく、自分たちの分かる言葉で表現して、納得することが大切であることが分かります。自分たちの感じたことを、自分たちで操作できる身近な用具で追求できる環境も必要です。